

## 水産の窓

### 底魚資源調査（冬季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚類の資源動向を把握するため、H15年から調査船いばらき丸（179t）により年2回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深75～450mまでの海域、合計29定点において、15～30分間（速力3～4ノット）網を曳き、面積密度法により本県海域の現存量を推定しています。今回はR6年11～12月に実施した冬季調査結果についてお知らせします。

なお、今回は調査船ドックの都合により、例年よりも早い11～12月に調査を実施しました（例年は12～1月に実施）。

#### 1 主要な底魚類の推定現存量の推移

H26年度から今年度までの推定現存量の推移を下表に示しました。また、参考として、県で資源評価を行っている魚種については資源水準（R6年3月時点）を示しました。

漁獲対象種の増減傾向を直近5年間の推移から判定した結果、増加傾向にあるのはユメカサゴ（のどぐろ）の1種、横ばい傾向にあるのはヤナギムシガレイ、ババガレイ（なめた）、マコガレイ（本まこ）、マガレイ（沖まこ）、ミギガレイ（にくもち）、ヤナギダコ（水だこ）、アオメエソ（めひかり）、マダラの8種、減少傾向にあるのはヒラメ、アカガレイ（赤がれい）、ムシガレイ、エゾイソアイナメ（どんこ）、アカムツ、キチジ（あかじ）、マアナゴ、マトウダイの8種でした。その他、漁獲対象とはなっていないトラザメ（ねこごめ）、テナガダラ（とうじん）は減少傾向でした。

昨年度と比較して、増加傾向の魚種数が減少し（6種→1種）、減少傾向の魚種数が増加しました（5種→8種）。今回の調査は例年と比べて約1か月前倒しで実施したため単純比較はできませんが、底魚類の資源状況には注視が必要です。特にヒラメについては、近年12月に入ってから底曳網による漁獲量が増加する傾向があることから、本調査では資源を正確に把握できていないと考えられます。水産試験場では引き続き持続的な資源利用に向けた取組を進めてまいります。

表 推定現存量の推移（冬季トロール調査）

		(単位:トン)													過去10年 平均
魚種/年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	傾向	水準※		
漁獲対象種	ヒラメ	389	466	310	261	221	247	181	156	253	253	2	減少	中位	274
	ヤナギムシガレイ	30	48	46	37	52	57	32	65	61	61	40	横ばい	中位	49
	ババガレイ(なめた)	33	73	25	32	39	10	20	16	38	38	4	横ばい	低位	32
	アカガレイ(赤がれい)	84	96	94	66	73	51	85	25	9	9	0	減少	—	59
	マコガレイ(本まこ)	5	6	46	26	25	31	3	6	6	6	3	横ばい	低位	16
	マガレイ(沖まこ)	26	13	13	5	6	8	0	0	0	0	0	横ばい	低位	7
	ムシガレイ	181	162	248	187	416	324	327	406	409	409	103	減少	高位	307
	ミギガレイ(にくもち)	26	36	26	56	24	52	41	17	48	48	28	横ばい	—	37
	ヤナギダコ(水だこ)	119	35	105	122	104	74	102	88	54	54	102	横ばい	低位	86
	アオメエソ(めひかり)	6	25	14	173	30	28	7	370	57	57	101	横ばい	高位	77
	エゾイソアイナメ(どんこ)	73	100	577	347	401	223	1,033	402	188	188	164	減少	—	353
	マダラ	1,104	401	156	68	63	22	7	7	6	6	5	横ばい	—	184
	アカムツ	5	16	1	3	2	3	1	36	14	14	3	減少	—	10
	ユメカサゴ(のどぐろ)	10	28	11	32	17	45	11	20	23	23	34	増加	高位	22
	キチジ(あかじ)	25	3	117	102	71	119	72	38	27	27	14	減少	高位	60
マアナゴ	54	126	36	80	60	59	42	145	20	20	24	減少	低位	64	
マトウダイ	29	31	17	20	86	76	47	30	38	38	19	減少	—	41	
参考	トラザメ(ねこごめ)	2,236	2,739	3,271	1,843	3,183	2,697	3,465	1,697	6,230	6,230	207	減少	—	3,359
	テナガダラ(とうじん)	1,177	501	1,154	3,046	3,588	1,582	2,727	2,190	2,340	2,340	637	減少	—	2,064

※:水準:「茨城県産重要魚種の生態と資源」令和6年3月公表の資源水準(令和7年3月更新予定)。—は未評価。

## 2 茨城県沖の水温の経年変化

近年、各地で海水温の上昇が報告されています。そこで、水産試験場で収集している海水温データをとりまとめました。

### (1) 那珂湊定地水温 (図1)

水産試験場栽培技術センターの取水口に設置した水温計により測定した沿岸水温を集計し、年平均水温を求めました。その結果、長期的に水温が上昇しており、特に2023年、2024年は18°Cを超えました。2017年8月に始まった黒潮大蛇行や2022年秋季以降の黒潮続流の顕著な北偏、気温の上昇により高水温となっていると考えられました。

### (2) いばらき丸海洋観測水温 (図2)

調査船いばらき丸により、毎月月上旬に実施している海洋観測調査で収集した東経141°以西の調査点における100m深水温を集計しました。こちらも那珂湊定地水温同様に、水温の上昇傾向が確認されました。

### (3) いばらき丸底魚資源調査における底水温 (図3)

前述の1で示した底魚資源調査において、トロール網の網口に設置した漁網監視装置により収集した調査時の底水温を集計しました。水深75mにおいては水温上昇が認められましたが、水深100~450mでは明瞭な傾向は確認されませんでした。本調査は年によって調査月が異なるため単純な比較はできませんが、表層に比べると水温の変化は顕著でないと考えられました。

今後、水温と底魚類の漁獲量や分布の関係を調べてまいります。

(定着性資源部 多賀・綿引)

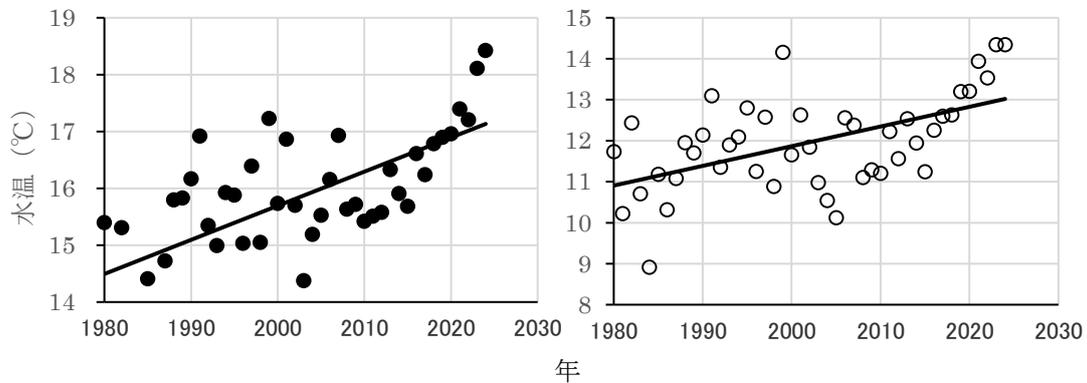


図1 那珂湊定地水温の年平均値

図2 海洋観測 100m 深水温の年平均値

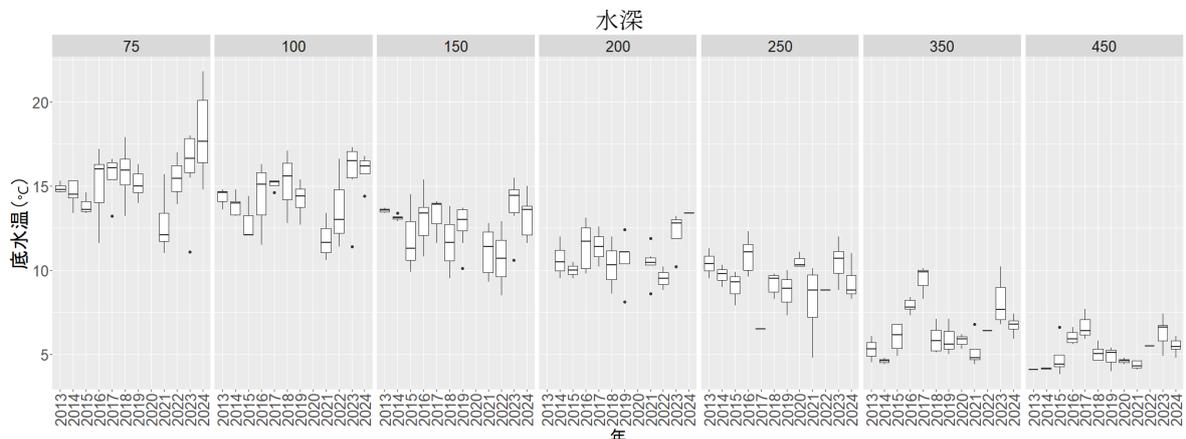


図3 底魚資源調査における水深別底水温